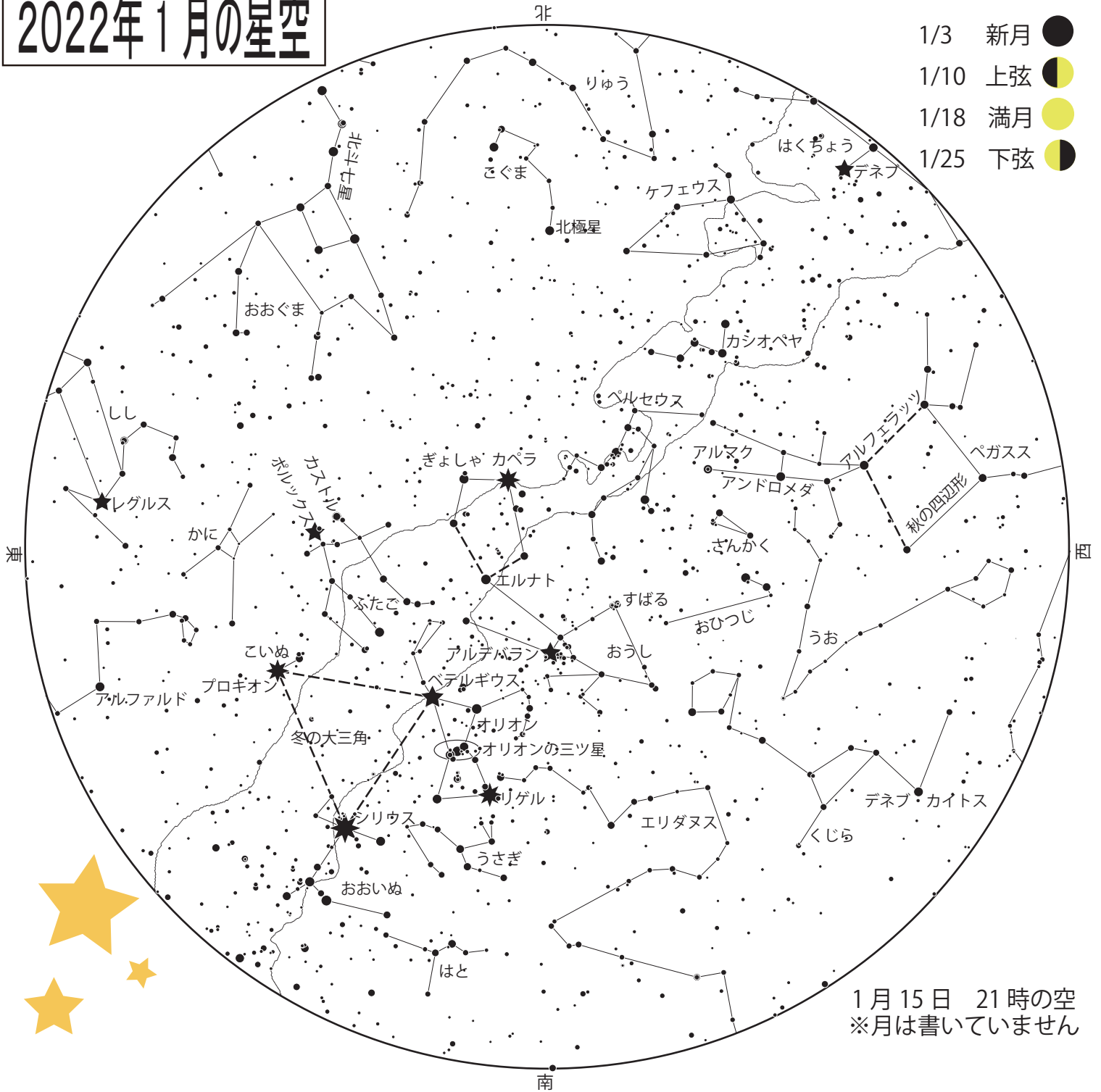


# 姫路で見る 2022年1月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。



- 1/3 新月 
- 1/10 上弦 
- 1/18 満月 
- 1/25 下弦 

1月15日 21時の空  
※月は書いていません

新年あけましておめでとうございます。今年も皆既月食や流星群など、天文イベントがたくさんありますので、ぜひ空を眺めてみてください。

南の空で結んだリボンのように見えるのがオリオン座です。オリオン座には2つの1等星が輝きます。オレンジ色の方がベテルギウス、青白い方がリゲルです。また、真ん中にある3つの星の並びは「オリオンの三ツ星」と呼ばれています。この三つ星を東の方にのぼすと、全天でいちばん明るい1等星、おおいぬ座のシリウスが見つかります。シリウスの左側にはこいぬ座のプロキオンも目立ちます。シリウス、プロキオン、ベテルギウスを結んでできるのが、冬の夜空の目印「冬の大三角」です。一方、三ツ星を西の方にのぼすと、おうし座の1等星アルデバランが見つかります。おうしの肩にある星の集まりは「すばる」で、肉眼でも6~7個の星が集まっているのが見えます。

冬の星が目立ちますが、西の空にはまだ秋の名残の星たちを見ることができます。また、反対の東の空には春の星座のしし座が見えはじめています。しし座の頭の部分は？を裏返したように見え、？の点の部分にあたるのが1等星のレグルスです。1年でいちばん寒い時期ですが、このレグルスや北斗七星を眺めると、春の訪れが近いことを感じることもできるかもしれません。